

そんなお客さんたちのなかで、最も親しくしていただいているのが鳥たちだ。春分の日がすぎてどんどん日が長くなるとたいへんだ。明け方といっても日の出の一時前ぐらいから鳥たちが一斉に鳴き出す。日の出の前の時間には、市民薄明という時間と、航海薄明という時間があるそうだ。市民薄明は灯などなくても歩ける明るさで、航海薄明は闇夜に水平線が浮かび上がる程度の明るさということだ。鳥たちは市民薄明など待っていられずに航海薄明の頃から鳴き出すのがある。なので、竹山で夜更かしするのは控えるようにしている。鳥たちが一斉に鳴き出すのを鳥のコーラスとも言ったりするようだが、どちらかというとコンサート開演前のオーケストラのチューニングみたいで、それぞれのペースで鳴いている感じだ。良く聞くのはシジュウカラやヒヨドリであるが、オオルリやクロツグミが鳴くと思わず聞き惚れてしまう。

鳥は朝だけでなく、昼も夜もメンバーを変えてやってくるが、朝来るお客さんにはまいってしまうことがある。やはり寝室の窓際でコトコト音がするので見て見ると胸がオレンジ色のヤマガラが積んだ薪の上にチヨコンと止まっていて、しきりに小首をかしげてこちらを見ているのだ。「まだ、起きないんですか。もう明るくなってきましたよ。」そして「大丈夫ですか。息してますか。」と言っているかどうかはわからないが、どこか、心配そうな表情で小首をかしげてこちらの様子を伺っているのだ。これには本当にまいってしまう。

いったいどのくらいの種類の鳥たちが我が家を訪れてくるのか、サインまでのもらえないが記念撮影をすることにした。動物写真家の使うバズーカレンズは重そうだったし一眼レフで揃えると高いので、超望遠コンデジで済ますことにした。文字通りコンパクトなのに望遠力がすごく、月のクレーターもくっきり写る。さっそく来訪記念撮影にトライしたが、痛恨の選択ミスをしたのに気が付いた。このカメラにはファインダーが無かったのだ。大きめのディスプレイがついているのだが、それを頼りに飛んでいる鳥を画面に捉えるのは至難だし、仮に木に止まっても枝や葉の間にいる鳥を探し出すのは苦勞する。そこで、焼き鳥などに使う竹串をカメラの上部にレンズの向けている方向にテープで止めてみた。これがあると竹串をターゲットに向けることで瞬時に画面に収めることができるのだ。

そうやって記念撮影に応じてくれたのは、トビ、オジロワシ、オオジシギ、アオサギ、カケス、マガモ、キジバト、シメ、ヒヨドリ、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、アオジ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、アカハラ、ツグミ、ウソ、クロツグミ、メジロ、ミヤマホオジロ、ホオジロ、モズ、オオルリ、カワラヒワ、キセキレイ、アトリ、そしてシマエナガ。みなさん撮影にご協力いただきありがとうございました。中には撮影は遠慮したいという方もいる。良くいらっしやるのに声だけのウグイス。畑づくりには欠かせないカッコー、奇怪な声で驚かせるアオバト、夜更かしのフクロウの誰か。あと、上空を通り過ぎるだけのハクチョウのみなさんかな。



